（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	垣花　シゲ	所　属	医学部保健学科基礎看護学講座基礎看護学分野	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	学部科目(看護学概論、生活援助看護技術Ⅰ、生活援助看護技術Ⅱ、生活援助看護技術実習Ⅰ、生活援助看護技術実習Ⅱ、看護システムと管理)を担当、生命倫理学をオーガナイズする。「生活援助看護技術Ⅰ、Ⅱ」では4年前から実践している教育方法：学生による看護技術のデモンストレーション、を継続する。博士前期課程では看護管理学特論、基礎看護特論を担当、保健学研究方法、保健学特論を分担、博士後期課程では国際看護学特論の担当および国際島嶼保健学特論を分担する。	0.30	学部教育、大学院教育を目標通りに達成した。学部教育において継続実践している「生活援助看護技術Ⅰ、Ⅱ」教育方法：学生による看護技術のデモンストレーションは学生に自主的な学習態度の強化に役立っている。博士前期課程では、社会人学生支援事業を活用し、オーストラリアから「国際看護」の講師を、東京からは「質的研究：M―GTA,」の 講師を招き、大学院生の研究方法理解を支援した。従って、目標を達成した。
研究	0.30	発展途上国における医療従事者を対象とした院内感染対策および感染対策教育に関する研究を継続する。また、看護ケアの向上・開発に関する研究を学部学生・博士課程学生に指導し、国内外の学会発表・学会誌等への発表を行う。博士前期課程学生の研究費獲得に関する書類作成指導を積極的に実施する。	0.30	科学研究費による「発展途上国の医療従事者を対象とした感染対策教育」を継続実施している。また、日本国際保健医療学会において「外国人患者の医療支援」に関する研究発表を行った。本年度は看護ケアの中で最も重要な「コミュニケーション」および「患者の看護に対する満足度の評価スケール開発」を目指した研究を学部生、博士前期学生と行った。よって、目標を達成した。
社会貢献	0.05	1．琉球大学医学部附属病院との教育・研究におけるユニフィケーションの推進をバックアップし、必要に応じてconsultingを行う。 2．琉球大学医学会の庶務を担当する。 3．琉球大学臨床研究委員会委員として会議に出席するとともに、臨床研究計画の審査を担当する。	0.05	琉球大学医学部附属病院看護部との研究及び学生教育についてユニフィケーションを推進した。特に、臨床看護師の看護研究については各病棟からの研究発表を指導支援した。看護師らは、研究成果を病院内で発表した。目標2．および3．についても目標を達成できた。臨床研究倫理審査委員会活動は、定期の委員会だけでなく、迅速審査も担当し、2～3件／月を審査し、琉球大学の研究発展に貢献できた。
管理運営	0.30	保健学科の学科長として学科運営会議の運営を行う。また、将来計画委員長、予算委員長、入試委員長、教員推薦委員会委員として将来計画の策定及び推進を行う。医学部・医学研究科・附属病院予算委員会、学務委員会の委員として管理運営に当たる。	0.30	保健学科長として学科の管理運営を行った。特に、本年度は定年退官教員の後任人事を将来計画に沿った形で進めることができた。入試委員長、予算委員長、教員推薦委員会委員としての仕事も行った。また、医学部内の役割も行った。保健学科棟内の整備（棟内全体のトイレ改修）、安全で快適な学習環境作りとして人感センサーの照明を設置した。
進路指導	0.05	研究室3年次・4年次、博士前期課程学生の卒業後の進学、留学、就職に関する相談・指導にあたる。履歴書や願書の記載指導、紹介状の作成等をおこなう。	0.05	学部学生の進路指導、支援を行い、研究室所属学生7名は就職内定を取ることができた。また、大学院の卒業生も就職が決定した。大学院1年次学生は、JICAの青年海外協力隊員に決定し、4月から派遣前研修を受ける予定である。7月には、南米パラグアイに派遣される予定である。途上国での活動について、教員の経験を踏まえて指導した。よって、目標を達成した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）					
名　前	眞榮城　千夏子	所　属	医学部保健学科基礎看護学	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	『生活援助看護技術Ⅱ』では、看護技術の理論・安全を重点に置く。形態学・生理学・薬理学が未履修な時期なので、理論が理解しやすいように写真・イラストを使用することにより、学習を深める。診療に伴う技術がメインとなるので、安全に関して、学生がイメージしやすいように臨床の場を想定した場面設定を行い演習を行う。また、シミュレーターを利用することにより、知識と技術の統合を図る。	0.45	『生活援助看護技術Ⅱ』では、看護技術の理論・安全管理に重点を置き、2年生でも理解しやすいように、写真やイラストを使用して講義を行った。演習の際にはシミュレーターを使用し、臨床の場をイメージしやすいような工夫を行った。『生活援助看護技術Ⅰ』では、根拠を大切にし、必修基礎科目履修前の学生でも理解できるように、解剖図や写真等を用いて、わかりやすい工夫を行った。
研究	0.20	今年度は、透析患者の自己管理に関する研究の文献を集め研究計画を作成し、来年度の実施に向けて準備を整える。また、クローン病患者に関する研究に関しては、今年度中に投稿する。	0.20	研究テーマを透析患者の自己管理から、臓器移植における看護師の態度に関する研究に変更したため、まず、臓器移植に関する文献検討を行い、研究計画書を作成中である。
社会貢献	0.10	教室主催の公開講座を予定している。	0.00	今年度、公開講座の開講はなかった。
管理運営	0.20	保健学科教務委員会に所属しており、学生の履修がスムーズに行くように、学習環境を陰からサポートする。また、看護の臨地実習検討委員に所属しており、学生の看護学実習がスムーズに進行できるよう、委員会会活動に積極的に参加する。	0.25	教務委員会に所属しており、会議には毎回参加して、学生の学習環境のサポートを行った。また、看護の臨地実習委員会にも、毎回参加し、看護学実習がスムーズに行くようにした。
進路指導	0.10	特に4年次の就職において、積極的に相談に応じる。また、3年次の指導教員でもあるので、学生の進路指導においても、積極的に相談に応じる。	0.10	4年次の進路相談に応じた。また他の学年の学生の進路・就職相談にも応じた。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）						
名　前	高倉 実		所　属	医学部保健学科	職　名	教授
領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定		業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果	
教育	0.25	共通教育科目（健康運動実技）を担当し，全学的教育に貢献する。学部担当科目（疫学，学校保健学，健康教育学，保健統計学，計4科目）を担当し，専門性を高める講義を行う。大学院博士前期課程科目（学校保健学特論・特演，保健学研究方法3回，保健学特論2回）を担当し，特に保健学研究方法は量的研究の進め方について講義を行う。大学院博士後期課程科目（保健学特別講義4回，健康増進開発学特論）を担当し，疫学的研究方法について講義する。Learning Management Systemを積極的に活用する。卒業論文，修士論文，博士論文の指導を行う。		0.25	共通教育，学部教育，大学院教育について，各々の授業評価は良好であり，目標を達成した。学部担当科目の「疫学」の講義にLMSのWebClassのテスト機能を使用して，演習問題を掲載し学生に予習復習させるようにした。その結果，本科目の期末試験の平均は高得点を維持している。また，学部教育「健康教育学」および「学校保健学」においてもWebClassを用いて指導した。さらに，大学院共通科目「保健学研究方法」「保健学特論」のオーガナイザーとして英語教材をWebClassに掲載して復習させるようにした。3名の卒業論文を指導した。その他に，1名の博士前期課程院生，3名の博士後期課程院生の研究指導を行った。	
研究	0.25	研究論文の採択を目指す。同様に関連学会で研究発表を行う。外部資金を代表者として獲得し，応用健康科学に関する研究を学外機関との共同研究として継続する。日本健康教育学会学会誌の編集委員として学会誌を編集するとともに，関連学会学術誌の査読を行う。		0.25	学会誌（査読有）に2編（単著1編，第二著者1編），大学紀要に1編の学術論文を発表した。また学会誌の依頼特集論文（単著）を1編発表した．国際学会に2件（筆頭著者1編），国内学会に6件（筆頭演者1件）の研究発表を行った。研究代表者として科研費（B)を獲得した。日本健康教育学会誌編集委員として3論文の編集担当，国際誌Int J Equity Health（IF=1.71）の査読，国内学会誌の4論文（2英文）の査読を担当した。	
社会貢献	0.20	関連学会の評議員として学会活動を積極的に行う。沖縄県の各種委員会の委員や研修会講師等を務め，委員会活動に積極的に参加する。		0.20	関連学会の評議員（日本疫学会，日本学校保健学会，日本健康教育学会，日本民族衛生学会），沖縄県公衆衛生学会幹事 沖縄県教育委員会研修会講師 沖縄県食育推進協議会委員 健康おきなわ21分野別検討委員会委員 日本健康教育学会論文査読セミナーファシリテーター	
管理運営	0.25	保健学研究科長としての管理運営活動を行う。部局長等懇談会や教育研究評議会をはじめとする全学的委員会，および琉球大学疫学研究倫理審査委員会などの全学的委員会，学部内各種委員会に積極的に参加する。		0.25	保健学研究科長として管理運営活動を行った。部局長等懇談会や教育研究評議会をはじめとする開催された全学的委員会にほぼ100%の出席率で参画した。その他の学内委員会にも積極的に参加した。 琉球大学疫学研究倫理審査委員長として運営・審査に当たった。	
進路指導	0.05	学生や大学院生の進路について積極的に相談する。特に養護教諭を目指す学生のために教育委員会や学校教員から情報収集する。大学院生の場合，将来の進路に役立つようなTA・RA活動を行う。		0.05	沖縄県教育庁の指導主事，沖縄県総合教育センターの研究主事と面談した。大学院生をRAとして活動させた。これらの研究支援活動への参画は，大学院生自身の実務能力や研究能力を高めるのに大変役立ったと思われる。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。	

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	加 藤 種 一	所　属	医学部　保健学科	職　名	助 教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	学部担当科目は、保健統計を担当し、学士教育プログラム及びシラバスの教育目標、内容を満たす講義・実習を行う。特に保健統計学では、表計算アプリケーションによるデーターの統計処理に重点を置く。共通教育では、運動・スポーツ科学演習（ゴルフ）を前後期で3コマ担当し、学士教育プログラム及びシラバスの教育目標、内容を満たす教育を行う。	0.30	学部担当科目は、保健統計を担当し、学士教育プログラム及びシラバスの教育目標、内容を満たす講義・実習を行った。特に保健統計学では、表計算アプリケーションによるデーターの統計処理も基礎的な部分では十分クリアした。共通教育では、運動・スポーツ科学演習（ゴルフ）を前後期で3コマ担当し、学士教育プログラム及びシラバスの教育目標、内容を満たす教育を行った。
研究	0.28	2005年と2010年に沖縄県内の某国家機関の就業者の悩み・不安に関するアンケート調査を実施、その結果の論文を作成中である。（投稿学会誌は未定）　また、沖縄県内、中学・高校生ゴルファーのスポーツ障害に関する調査を行う。調査計画、質問紙内容を検討中である。	0.28	2005年と2010年に沖縄県内の某国家機関の就業者の悩み・不安に関するアンケート調査を実施、その結果の論文を作成した。しかし、学会誌等への投稿は、某国家機関の許可が必要なため、現在申請中である。　また、某国家機関の2010年～2103年までの職員のカウンセリング件数、推移、内容等をカウンセリング記録から、集計し、保健科学研究会で発表した。沖縄県内、中学・高校生ゴルファーのスポーツ障害に関する調査では、質問紙を作成し、予備調査を行った。現在、その結果を基に再度、質問項目を検討中である。
社会貢献	0.27	県内国家機関の職員のカウンセリング、メンタルヘルス講習等を行う。湘央学園浦添看護学校、那覇医師会那覇看護専門学校において、情報科学（非常勤講師）を担当する。沖縄県歯科衛生士学校で公衆衛生（非常勤講師）を担当する。沖縄県学生ゴルフ連盟事務局長を務め、沖縄県学生ゴルフ選手権、中・高校生交流ゴルフ大会等の運営にあたる。	0.27	県内国家機関の職員のカウンセリング、メンタルヘルス講習等を行った。湘央学園浦添看護学校、那覇医師会那覇看護専門学校において、情報科学（非常勤講師）を担当した。沖縄県歯科衛生士学校で公衆衛生（非常勤講師）を担当した。沖縄県学生ゴルフ連盟事務局長を務め、沖縄県学生ゴルフ選手権、中・高校生交流ゴルフ大会等の運営した。
管理運営	0.01	平成25年度の大学入試センターの試験監督、前期或いは後期試験の試験監督等に従事する。	0.01	平成25年度の大学入試センターで試験監督を担当した。また、前期の試験監督を担当する予定である。
進路指導	0.05	琉球大学ゴルフ部の顧問教員を務める関係上、４年生（2名）、３年生（2名）の進路指導にあたる。	0.05	琉球大学ゴルフ部の４年生（1名）、３年生（2名）のへの就職に関する面接、情報提供を行った。その結果、４年生１名は就職が決定した。
	0.09	琉球大学ゴルフ部の顧問教員を務める。県内外の大会への選手派遣、またゴルフを通した人間形成、技術、ルール及びマナーの向上に関し指導する。	0.09	ゴルフ部において、週2回の練習指導を行い、九州学生ゴルフ選手権に5名派遣、その他県内学生選手権、学生ジュニアOPEN選手権などに多くの学生を出場させた。また、九州学生ゴルフ連盟と共催で九州各大学と沖縄県内大学生交流ゴルフ大会を2月に企画、実施した。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	當間　孝子	所　属	医学部	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	大学院博士後期課程学生の研究と論文指導および「国際島嶼保健学」のオーガナイズを行う。また、博士前期課程の「環境保健学特論・演習」の講義を行うと共に、「保健学研究方法」、「保健学特論」の講義の一部を担当する。さらに、学部では、「技術卒業研究II」、「医動物学」、「医動物学実習」、「国際環境保健学」の講義、実習、研究指導を担当すると共に、医学科の「医動物学」、全学に提供している「人の健康科学」の講義の一部を担当する。これらの科目の講義、研究指導はこれまでの研究成果を反映させて行う。	0.30	大学院博士後期課程学生の研究と論文指導および「国際島嶼保健学」のオーガナイズを行った。また、博士前期課程の「環境保健学特論・演習」の講義を行うと共に、「保健学研究方法」、「保健学特論」の講義の一部も担当した。さらに、学部では、「技術卒業研究II」、「医動物学」、「医動物学実習」、「国際環境保健学」の講義、実習、研究指導を担当すると共に、医学科の「医動物学」、全学に提供している「人の健康科学」の講義の一部も担当した。予定していた講義、実習、研究指導は、これまでの研究成果を反映させて効果的に行うことができた。
研究	0.30	研究成果を学会で発表し、国内外の学会誌へ投稿する。研究は他学部、他大学、他研究所との共同研究も行う。学会では編集委員として活躍する。	0.30	研究成果を関係学会で発表すると共に、国内外の学会誌へ投稿し、6編の論文が掲載された。研究は工学部、長崎大学、金沢大学、国立感染症研究所との共同研究も行った。日本衛生動物学会では編集委員として活躍した。
社会貢献	0.10	県内の関連研究所等への研究指導を行う。	0.10	県内の衛生環境研究所の研究員への研究指導を行った。市民公開講座や那覇港・那覇空港区域衛生管理運営協議会で講演を行った。
管理運営	0.20	全学の「大学委員会」、「附属図書館運営委員会」、「附属図書館学術情報基盤資料選定委員会」、「国際沖縄研究所運営委員会」、「風樹館運営委員会」、「大学教育改善委員会」や、学部の「国際交流委員会」、「医学部附属図書館委員会」、また、保健学研究科の「学務委員会」委員長、「国際交流委員会」委員、保健学科の「入試委員会」、「予算委員会」の委員としても活動を行う。	0.20	全学の「大学委員会」、「附属図書館運営委員会」、「附属図書館学術情報基盤資料選定委員会」、「国際沖縄研究所運営委員会」、「風樹館運営委員会」、「大学教育改善委員会」や、学部の「国際交流委員会」、「医学部附属図書館委員会」、また、保健学研究科の「学務委員会」委員長、「国際交流委員会」委員、保健学科の「入試委員会」、「予算委員会」の委員としても活動を行い、大学、学部、学科、保健学研究科の管理運営に関わり、貢献した。
進路指導	0.10	保健学研究科では学務委員長として、また、当該分野では大学院生（博士後期）の研究指導教員、学部4年次の卒業研究指導教員として、学生の修学指導、生活指導、進路指導、就職支援などを積極的に行う。	0.10	保健学研究科では学務委員長として、また、当該分野では大学院生（博士後期）の研究指導教員、学部4年次の卒業研究指導教員として、学生の修学指導、生活指導、進路指導、就職支援などに積極的に関わった。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	砂川　洋子	所属	医学部保健学科	職　名	教　授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	・大学院博士前期課程におけるCNSプログラム履修の促進及びカリキュラムの精選を図る。。 ・学部学生の講義や実習を担当し、学生の看護観や知識・技術・態度の統合化の指導を行う。 ・卒業研究（3・4年次）の指導を行い、看護学発展のための基礎研究能力の獲得を図る。 ・がん看護、緩和ケアに関する看護実践の促進を図る。	0.3	大学院博士前期課程における専門看護師育成プログラムの受講生2名の教育の促進及び博士後期課程講義（保健学研究）の2コマを担当し、大学院生の人材育成に貢献した。学部学生（2・3・4年次）の看護学必修科目としての「成人看護学」「緩和ケア」「がん看護論」「看護総合実習」を担当し、看護学発展のための教育指導を実践した。学部学生の卒業研究指導（2名）と博士前期課程院生（1名）の特別研究指導を行うなど、目標は達成できた。
研究	0.30	・がん看護や緩和ケアに関する研究論文を執筆する。また、学会などで、得られた成果の発表を行う。 ・大学院生や修了生と共に、研究論文の採択を目指す。 ・がん看護や緩和ケアに関連した外部研究資金の獲得を目指す。大学院生及び学部学生の研究指導を行い、研究実施、論文作成を行う。ケアリングアイランド九州沖縄構想プロジェクトの主要メンバーとして、本構想の研究を促進する。 ・がんプロフェッショナル養成基盤研究が採択されたことにより、大学院において本研究の促進を図る。	0.3	科研費分担（平成21～23年度）「沖縄県内がん患者の在宅療養ネットワーク構築に向けた包括的調査研究の成果を纏め、文科省へ報告するとともに研究成果報告書を印刷した。また、その成果は、日本がん看護学会、日本緩和医療学会、国際ケアリング学会に公表してきた。また、その成果の1部を代表者（助教）の学位論文として学術投稿を指導し、8月に学位記（論文博士）の取得に至った。また、日本がん看護学会より依頼され、「Putting Evidence into Practice-Improving Oncology Patients Outcomes」の翻訳を一部担当し、印刷刊行された。
社会貢献	0.20	・県内での緩和ケア研修会（特別講演会やシンポジウム）などを企画し、県内の看護職の緩和ケアレベルの向上に貢献する。 ・九州がんプロフェッショナル基盤養成プランの連携大学として、がん看護専門看護師養成プログラムの一環として、看護職を対象に教育セミナーを開催し、看護師のキャリアアップを図る。 ・日本がん看護学会や日本緩和医療学会の評議員、査読委員として学会活動に貢献する。ケアリングアイランド九州沖縄構想プログラムのメンバーとして、大学間連携の促進にあたる。	0.2	九州がんプロ基盤養成プランの連携大学として、がん看護エキスパートナースコースを開設し、県内の各総合病院より応募のあった中堅看護師（5名）を対象に、キャリアアッププログラムを実践した。また、沖縄県内のがん医療における緩和ケアやがん看護の普及のために、公開講座やセミナーを開催した。その他、日本がん看護学会や日本緩和医療学会の評議員、査読委員としての学会活動にも貢献した。大学間連携推進事業「しなかやプロジェクト」の代表として、数多くのプロジェクト推進事業を行い、看護学生や卒業生の支援活動に貢献した。
管理運営	0.15	・学科運営会議、研究科委員会、教授会に出席し、当該分野の運営にあたる。 ・医学部（入学者選抜検討委員会）及び附属病院会議（地域連携委員会、附属病院将来計画委員会）などに参加し、組織の一員としての役割を果たす。	0.15	学科運営会議、研究科委員会、教授会に出席し、分野長として当該研究室の管理運営に努めた。全学で開催される入試関連委員会及び学部内委員会（組織整備、ホームページ）、学科内委員会（入試・予算・教務・推薦委員会など）、附属病院（地域連携・将来計画委員会）などに参加し、学内組織の一員としての役割を果たした。また、九州がんプロ及び文科省大学間連携推進事業「しなかやプロジェクト」の主要メンバーとして協議会や推進会議に参加した。また、2月から3月にかけて6日間、米国コロラド大学を視察し、大学間連携事業の促進を図った。
進路指導	0.05	・当該分野の大学院生や卒業研究生を中心として、就職活動や進路指導に	0.05	当該分野長として、卒業研究生（2名）の就職活動や進路指導に当たった。県外（九州方面）や大学附属病院の看護師として採用が内定している。また、大学院修了生（がん専門看護コース）に対して、専門試験に受験するためのスーパーバイスを行い、第一号としてがん看護専門看護師の試験に合格し、日本看護協会の認定を受けた。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	照屋　典子	所　属	成人看護学Ｉ分野	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	【前期】 ・『がん看護論』では、「放射線看護」について講義を担当する ・『急性期看護実習』は、8西、6東、7西病棟での各2週間（5名グループ×3クール）の実習を担当し、受持ち患者への看護を通して、学生が周手術期看護の基本的知識・技術が習得できるよう指導・助言を行う。また『成人総合看護実習』は、8西、6東、7西病棟での各1週間（5名グループ×3クール）の実習を担当し、病棟管理やチーム医療の実際について学習できるよう、病棟師長、リーダー、メンバーとの調整を行う。実習後、学生が習得の足りないと感じる事柄については演習（シミュレーション等）で補う。 【後期】：講義では視聴覚教材、グループワークやシミュレーション等を取り入れ、参画型講義を行う。 ・『成人看護学』では全体シラバス作成、「成人期にある人の健康（概論）」、「生活習慣に関連した成人期の健康障害」に関する講義を担当する。 ・『成人急性期看護』では「術前看護」に関する講義及びクリニカルシミュレーションセンターにて、シミュレーション演習を行う。 ・今年度より開講される『看護総合実習』（4年次・1単位）では、実習全体のオーガナイズ、並びに学生2名の個別指導を担当する。学生がより主体的に自己の学習課題が達成できるよう学生への助言、並びに看護系教員、実習場所となる琉大附属病院との調整を行う。	0.35	【前期】 ・『がん看護論』では、「放射線看護」について講義を担当した。 ・『急性期看護実習』『成人総合看護実習』では、8西、6東、7西病棟で各3週間（5名グループ×3クール）計9週間の実習を担当し、とくに、8西、6東病棟師長、スタッフ、及び学生の受け持ち患者・家族からは、学生に対する好評価が得られた。 【後期】 ・『成人看護学』ではシラバス作成、「成人期にある人の健康」、「生活習慣に関連した成人期の健康障害」に関する講義を担当した。とくにグループワークやがん体験者の講話を取り入れたり、国家試験内容も盛り込んだ講義は学生に好評であった。 ・『成人急性期看護』では「術前看護」に関する講義担当、術後看護ではシミュレーション演習を行い、好評であった。 ・『慢性期看護実践学』では、「終末期を迎える患者・家族への看護」について講義を担当した。学生にとってイメージすることは困難であるため、視聴覚教材を取り入れたが、具体的にイメージしやすかったとの感想が多く聴かれた。 ・『看護総合実習』（4年次・1単位）では、当分野の教授とオーガナイズを担当した。「学生が主体的に行う」初めての実習ということもあり、実習の進め方や実習施設との調整について、学生、教員間での理解が異なり実習調整が不十分な点もあったので、次年度は、学生だけでなく、各教員とも実習の進め方や各施設との調整の確認を行いながら、実習を進めていきたい。
研究	0.35	・前年度まで科研 基盤研究（C）で実施していた「沖縄県におけるがん患者の在宅療養支援ネットワーク構築に向けた調査研究」で得られた成果の一部をまとめた論文が、Ryukyu Medical Journal で受理されたので、今年度号に発表（掲載）予定。 ・上記研究課題で実施した調査研究の一部について、第17回日本緩和医療学会（6月・神戸）で口頭発表、第38回日本看護研究学会（7月・沖縄）で示説発表を行う。 　また、第27回日本がん看護学会（H25年2月開催予定）にも上記研究課題で、訪問看護師を対象に行った研究成果についての演題をエントリー（8月頃）する。 ・上記研究課題で得られた成果をもとに、病院看護師、訪問看護師を対象とした事例検討会を企画・実施し、今後計画している病院看護師－訪問看護師間のネットワークを構築を進めていく上での方略、課題を探る。 ・当教室の卒業研究（4年次2名）では、子宮頸がん予防・啓発活動に関する調査を実施するので、調査の実施～結果のまとめ、卒業研究発表までの一連の過程において学生へ指導・助言を行う。 ・昨年度に引き続き、日本がん看護学会の評議員活動を行う。 ・第38回日本看護研究学会学術集会（H24/7月7-8日・沖縄）では、新人看護師育成に関する臨床と教育における協働・連携をテーマとした交流集会の世話人（ファシリテーター）を担当し、プレゼンターとの調整、並びに当日の進行を行う。また、同学術集会では、拡大実行委員として、学会当日の運営にもかかわる。	0.30	・H21～23 科研 基盤（C）「沖縄県におけるがん患者の在宅療養支援ネットワーク構築に向けた調査研究」による成果の一部をまとめ、Ryukyu Medical Journal に論文投稿し受理された（vol.31 No.1.2 p11-23,2012）。その論文で、保健学研究科の博士論文審査を受け、学位を取得した。 ・上記の調査研究の一部について、第17回日本緩和医療学会（6月・神戸）で口頭発表、第38回日本看護研究学会（7月・沖縄）で示説発表を行った。第27回日本がん看護学会（H25年2月17日）でも、訪問看護師を対象に行った研究成果についての示説発表を行った。 ・今年度は、病院看護師、訪問看護師を対象とした事例検討会の企画・実施が実現できなかったので、次年度、実施したい。 ・当教室の卒業研究（4年次2名）では、子宮頸がん予防・啓発活動に関する調査から卒業研究発表、論文集作成の一連の過程において学生への指導・助言を行った。その一部については、H24年11月沖縄県公衆衛生学会で、学生が口演発表を実施することができた。 ・昨年度に引き続き、日本がん看護学会の評議員活動を行った。また、第27回日本がん看護学会では、応募された演題の査読委員を担当した。 ・第38回日本看護研究学会学術集会（H24/7月7-8日・沖縄）では、新人看護師育成に関する臨床と教育における協働・連携をテーマとした交流集会の司会・進行を担当し、プレゼンターとの調整、並びに当日の進行を行い、演者―フロア間で有意義なディスカッションが行うことができた。交流集会の様子についても原稿を作成し、学会誌上（H25.4月発行予定）で報告した。また、同学術集会では、拡大実行委員として、学会当日の運営にもかかわった。 ・今年度より、当学科と医学部附属病院看護部における看護研究のユニフィケーションが始まったが、附属病院の放射線科病棟、10F東病棟の看護研究について、研究計画書の作成から関わり、文献クリティークやデータのまとめ方、発表原稿の作成に関する助言を行った。
社会貢献	0.30	・今年度も引き続き、一般市民への緩和ケアの普及啓発を目的として、9月8日（土）ハートライフ病院との共催で、琉球大学公開講座「がん患者・家族を癒す緩和ケアの実際」を開催する。その企画・運営（施設側との調整、当日の進行等）を担当し、実施後、受講者アンケートにより評価する。 ・昨年度まで"看護系大学から発信するケアリング・アイランド九州沖縄構想"プロジェクトの学内担当者であったが、今年度、同プロジェクトで新人看護師の技術支援に関するマニュアル本の出版が計画されており、その執筆担当者となったので、その執筆を行う。 ・当教室の教授が担当する九州がんプロフェッショナル養成プランの一環で、島しょ地域の看護師を対象としたインテンシブコース（継続教育）プログラムの運営・企画と講義を担当する。	0.35	・9月8日（土）ハートライフ病院との共催で、琉球大学公開講座「がん患者・家族を癒す緩和ケアの実際」を開催し、その企画・運営（施設側との調整、当日の進行等）を担当した。約40名の一般参加者があり、緩和ケアや病院内における実際の活動についての理解が深まったとの意見が聴かれた。次年度は、友愛会南部病院との共催が決定しており、H25年度も引き続き、その企画、運営、共催施設との調整を行っている。 ・平成21年度文科省採択「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」"看護系大学から発信するケアリング・アイランド九州沖縄構想"プロジェクトにおける看護技術支援マニュアルに関する本の執筆分担を担当した（メヂカルフレンド社よりH25.4月発刊予定）。 ・H24年度より、上記プロジェクトが新たに「ケアリング・アイランド九州沖縄大学コンソーシアム」として活動が開始となり、引き続き、他大学との交流、並びに共同研究　科研A「卒後1年目看護師の定着率向上を目的とした広域包括支援プログラムの開発研究」（代表：福岡県立大学　安酸史子教授）にも研究協力者として関わっている。その一環として、H25、3月に、県内10施設の卒後1年目看護師を対象とした看護技術支援セミナーを開催する予定であり、現在、その準備を進めているところである。セミナー開催前後にはアンケート調査を実施し、評価を行う。 ・九州がんプロ養成基盤推進プラン の一環として、H24年度後学期よりがん看護エキスパートナース養成コースを開講し、その企画・運営に関わり、がん患者・家族の意思決定支援、高齢者におけるエンドオブライフ、臨死期のケアに関する講義を担当した。講義では、事例検討、ロールプレイ、グループワークなどを取り入れ、受講生である臨床のナースからは日々の実践の振り返りができたと好評であった。また、受講生の第27回日本がん看護学会での演題発表に際し、抄録やスライド作成などの助言を行った。島しょ地域の看護師を対象としたがん看護の継続教育プログラムの開講は、先方の都合により次年度実施予定である。 ・H24年度文科省採択「大学間連携共同教育推進事業」多価値尊重社会の実現に寄与する学生を養成する教育共同体の構築（代表：福岡県立大学）のプロジェクトでは、当分野の教授とともに琉球大学の担当者として関わらせていただいている。本プロジェクトの特命助教とともに、統一コード部会、研修調整部会、キャリア像確立部会に参加し、次年度の具体的な事業展開に向けての情報収集、準備を進めている。
管理運営	0.00		0.00	
臨床路指導	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）					
名　前	國吉　緑	所　属	医学部・保健学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	・学生が看護専門職として責任を持って主体的に授業に取り組めるよう工夫する（実際の事例、現場の状況を用いた内容） ・学生が主体的に実習に取り組めるよう事前学習を提示する（演習室の確保、事前学習への教員の参加） ・学部学生の「看護学臨地実習到達目標における自領域に関する到達度について検討する ・大学院学生（社会人）の研究計画への相談・助言を定期的に行う。	0.35	・現場の状況を踏まえ実習先の非常勤講師を招いて演習を行い、実際の実習で活用できた。 ・事前学習として受け持ちケースに関する情報を提示し、病態や必要な看護ケアについて学習できるよう環境を整えるた。 ・「看護学臨地実習到達目標における自領域に関する到達度」についての検討は継続中の課題・腱空計画への相談 ・助言は社会人学生の時間に合わせて行った
研究	0.20	・学会誌に投稿する（総説、論文）・6月の琉球大学疫学倫理審査委員会の審査を受け、承認後、調査を実施し年度内でまとめる。 ・科研の最終年度の報告書を作成する ・学会等の活動（日本糖尿病療養指導士認定ガイドブック編集委員会委員（平成20年4月1日～）、日本慢性期看護学会評議員）の役割を務める　・日本看護研究学会でのシンポジウムの座長を務める	0.05	・学会誌への投稿は継続課題・倫理審査は12月に受け、現在調査継続中 ・科研の報告書は3月末までに実施予定 ・ガイドブック編集委員会の役割は継続中。日本慢性期学会評議員の役割は終了していた（H23） ・日本看護研究学会でのシンポジウム座長を務めた（7月）
社会貢献	0.03	下記、学外の委員会等への参画 ・西原町地域包括支援センター及び地域密着型サービス運営委員会（平成24年2月～平成27年1月） ・沖縄県介護保険審査会委員（平成22年6月～平成25年6月30日） ・沖縄市福祉のまちづくり推進懇話会委員（平成22年8月平成24年6月30日） ・看護協会特別委員会・組織強化委員会（平成21年7月31日～） ・	0.05	・左記の委員会の役割は公務のない日程で行えた ・新たに那覇市保健福祉医療審議会/高齢者部会(平成24年8月28日～平成26年8月27日）委員の委託を受ける
管理運営	0.30	・看護学教育会議議長（平成24年4月1日～平成26年.3.31）として看護学教育会議の運営を滞りなく行う・看護コース長（平成24年4月1日～平成25年3.31）　としての役割を担う ・保健学研究科国際交流委員会3号委員（平成24年4月1日～平成26年3月31日）を務める ・保健学科・保健学研究科学生支援委員会3号委員（平成24年4月1日～平成25年3月31日）を務める ・成人・老年看護学講座主任（平成24年4月1日～平成25年3月31日）を務める ・医学部広報委員会委員（平成24年4月1日～平成26年.3.31）を務める　　・大学院医学研究科・医学部研究概要編集委員会委員（平成24年4月1日～平成26年.3.31）を務める	0.50	・左記の役割は滞りなく務めた・看護コース長および学生支援委員として学生の予防接種に関する案内を行った ・特に医学部研究概要の編集の任を受け、平成23年度の研究概要を2月に作成し、各領域への配布を行った
進路指導	0.05	/からの進路・生活などの相談に対応する ・2年次2班の指導教員として学生の相談・指導に対応する	0.03	・学生の進路・生活などの相談に対応した ・2年次2班の指導教員として学生の相談・指導に対応した
その他	0.02		0.02	・教授候補者推薦委員としての役割を担った ・大学院修士学生の審査委員（主査・副査）を担った
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	東恩納　美樹	所　属	医学部保健学科老年看護学分野	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.60	高齢期看護実践学や慢性期看護学で担当する講義において、シミュレーション教育技法やPBL, IBLを取り入れ、学生の知識向上や学習意欲の向上に努める。	0.85	目標は概ね達成された。高齢期看護実践学で担当した4コマの講義のうち、1コマでシミュレーション教育技法を用いた講義を実践し、また講義にクリッカーを取り入れ、学生とのインターアクションを大切に講義を実施した。慢性期看護実践学では、担当した2コマのうち1コマでProblem-based learning手法を用いた講義を実施し、学生のクリティカルシンキング能力や学習意欲の向上に努めた。
研究	0.35	1. 平成23年度に実施した研究を論文発表する。 2. 平成24年度に新規に科研費を獲得した「簡易転倒転落アセスメントツールの開発」の研究を実施する。	0.13	目標は、1部達成された。科研の研究では、評定者間一致性に関する研究を実施できた。平成24年度は、高齢期と慢性期の2分野を担当していたため、教育領域に時間が費やされ、研究論文の完成に至らなかった。次年度は、ぜひ論文発表できるように努力していきたい。
社会貢献	0.00		0.00	
管理運営	0.05	1.看護学教育会議に8割以上出席し、保健学科運営・管理について理解する。また、担当する回の議題調整や議事録作成を行う。 2.臨地実習検討委員会のメンバーとして活動する。	0.02	看護学教育会議は8割以上出席し、担当回の議題調整や議事録作成を行った。また、臨地実習検討委員会にも参加し、メンバーとして活動した。目標は、達成されたと考える。
進路指導	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

各教員は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付	⇨	**評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに**三者間（評価者、当該教員、部局等の長）**で調整	⇨	**評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付	⇨	**事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出	⇨	**各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付

（別紙１） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	大嶺ふじ子	所　属	医学部保健学科母性看護・助産学	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	助産学必修科目（周産期学・助産の理論・助産管理・助産診断技術学Ⅰ・助産実習・助産統合実習計20単位）を担当し、助産学実践力教授活動自己評価尺度の基準を満たす講義・実習を行う。助産実習における妊娠中からの継続事例への関わりを学生とともに7月より実施する。卒業研究として、あらゆるライフステージにある女性とその家族に対する調査を地域や施設において実施する。卒業直前技術演習に協力し、学生の就職前技術指導を行う。大学院前期課程3人の授業・研究に計画的に関わる。JICA＆琉球大学のプロジェクト「スーダン国南部スーダン戦略的保健人材育成プロジェクト」第二フェーズ・第一次派遣（約1ヵ月）に参加、大学院生とともに助産師の資質向上のための助産師教育技術提供に関わる。	0.35	卒業研究Ⅰ・Ⅱ・助産学必修科目（助産管理・助産診断技術学Ⅰ・Ⅱ・助産実習計19単位）を担当し、看護学・助産学実践力教授活動自己評価尺度の基準を満たす講義・実習を行った。助産実習において、学生とともに妊娠中から継続事例へ関わり、学生1人あたり10例の分娩介助実習を臨地で指導した。大学院博士前期課程3名を指導、女性保健看護学特論・演習を受持ち指導した。大学院修士前期課程学位論文副査を4題受け持った。全国助産師教育協議会の施設会員・個人会員であり、他大学と連携しながら助産師教育の発展のため検討を行っている。
研究	0.20	あらゆるライフステージにある女性とその家族に対する調査を地域や施設において実施する。JICA＆琉球大学のプロジェクト「スーダン国南部スーダン戦略的保健人材育成プロジェクト」第二フェーズ・第一次派遣（約1ヵ月）に参加。助産師の資質向上のための助産師教育技術提供に引き続き関わり、助産師の資質向上のための技術提供プログラム策定および評価を行う。研究論文の学会誌採択を目指す。外部資金を獲得し、実社会に応用できる研究に努める。東京大学医学部家族看護学分野客員研究員として、母子看護学の視点から研究内容の相互交流を図る。	0.20	女性の出産体験に影響を及ぼす妊娠・分娩・産褥期の助産ケアの調査を継続中。科研費等外部資金の獲得では、平成24年度文部省科学研究費助成基盤研究C「開発途上国における日本型助産技術研修の継続的開催及び受講者情報システム構築の研究」が採択された。東京大学医学部家族看護学分野客員研究員として、母子看護学の視点から研究内容の相互交流を図っている。
社会貢献	0.20	JICA＆琉球大学のプロジェクト「スーダン国南部スーダン戦略的保健人材育成プロジェクト」第二フェーズ・第一次派遣（約1ヵ月）に参加。助産師の資質向上のための助産師教育技術提供に引き続き関わる。助産師の資質向上のための助産師教育技術提供に関わる。母性看護学、助産コース学生の地域実践応用としての思春期健康教育を、教員・大学院生とともに県内小中高等学校での出前講座を行う。沖縄県助産師会理事および研修委員として、助産師会会員の資質向上・会発展のための研修企画立案、事業運営、事務連絡等の役割を果たす。日本母性衛生学会評議員・査読委員としての職責を果たす。	0.20	JICAおよび琉球大学のプロジェクト「スーダン国南部スーダン戦略的保健人材育成プロジェクト －現在第一フェーズ延長期間－」に参加。助産師の資質向上のための助産師教育技術提供に関わっている。母性看護学、助産コース学生の地域実践応用としての思春期健康教育を、教員とともに県内小中高等学校での出前講座を年間3校行った。沖縄県助産師会理事・教育委員として、助産師会会員の資質向上・支部発展のための研修企画立案、事業運営、事務連絡等の役割を果たしている。看護協会主催JICA母子保健（アフリカ・中南米・ミャンマー）3コースの研修講師を努めた。日本母性衛生学会論文査読委員・地区評議委員としての職責を果たしている。
管理運営	0.10	琉球大学セクシャルハラスメント委員として、本学での会議に参加、職責を果たす。保健学科看護学教育会議における実習調整委員会委員長としての職責を果たす。指定規則改正後の助産師・保健師カリキュラムの各講議内容・単位変更の留意点を学生や各実習施設に説明しスムーズなカリキュラム移行をめざす。第38回日本看護研究学会学術集会（H24.6）運営へ協力する。	0.15	平成23年度より母子看護学講座主任として、将来計画委員会委員、教授推薦委員会委員としての職責を果たした。平成23年度臨地実習調整委員会委員長、保健学科看護学教育会議司会運営、カリキュラム検討委員会委員。琉球大学セクシャルハラスメント委員、平成24年度より医学部予算委員会委員、琉球医学会編集委員会委員をつとめている。
進路指導	0.10	助産師コース選択学生4年次6人、3年次7人および大学院前期課程3人の指導教員として、オフィスアワーを随時設定、各学生の身体的・精神的健康に留意、適性な単位取得を確認、学習意欲を促進できるような指導を行う。就職支援に関する情報をその都度、時期を失しないよう提供する。H24～指定規則改正後の助産師カリキュラムの各講議内容・単位変更の留意点を助産学生や各実習施設に説明しスムーズなカリキュラム移行をめざす。	0.10	助産コース選択学生4年生5名、3年生5名の就職相談や卒業研究を指導、オフィスアワーを随時設定、学生の身体的・精神的健康に留意、適性な単位取得を確認、学習意欲を促進できるような指導を行っている。就職支援に関する情報をその都度、時期を失しないよう提供。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙1）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）					
名　前	遠藤由美子	所　属	医学部保健学科母子看護学講座	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	1.母性看護学、助産学における教育方法の検討 わかりやすい講義、実習内容の工夫（講義資料、教授方法の工夫） 2. 卒業研究における教育法の工夫（演習の運営方法） 3.小児看護学教育への協力（講義、技術チェック分担担当） 4.看護技術に関する講義への協力(今年度より新規開講)	0.40	1　ポイントを絞った講義ができるよう,図を効果的に用いた資料の提示法を工夫 した。 グループワークや事例学習を積極的に行い、看護、助産の一連の看 護過程が理解できるよう、工夫した。 母性看護学実習では、レディネスシートを活用し、実習前のレディネス状況に 応じた個別指導に努めた。また、実習後の達成状況を把握するため評価表を 用いて達成状況の客観評価に努めた。助産実習では、安全管理を意識しな がら助産過程が理解できるよう個別指導を行った。 2ゼミを定期的開講し、文献抄読と並行して研究概論やプレゼンテーション法の 演習を行い、論文作成やプレゼンテーションのポイントについて教授した。 また、.学年毎の演習以外に3,4年合同の演習を行い、3年生が卒業研究の過 程を理解できるようにした。 大学院生(前期課程)に対しては、大学院指導 教員を補佐し、研究概論の講義　調査実施調整を補佐した。 3.小児看護学の講義を一部担当したが、小児技術チェックは非常勤が対応した ため、実施しなかった。 4.実施に向けた打ち合わせを行い、実施予定である（3.14,15）。
研究	0.40	1.科学研究費による研究の実施 （基盤B分担研究者：中高年看護職者のセカンドキャリア支援） （基盤C研究代表者：孫育て世代に対する包括的な健康支援） （基盤C分担研究者：開発途上国における日本型助産技術研修の 継続的開催および受講者情報システム構築） 2.東北大、山形大との共同研究実施 （孫育てに関わる祖父母に関する研究） 3.論文、学会発表による研究成果の公表	0.30	1.科学研究費による研究の実施 基盤B分担研究者として研究会に参加し、調査の実施及び結果分析にかか わった。基盤C代表研究者として、調査の企画、実施、分析を行った。基盤研究C分担研究者として、次年度調査に向けた準備を補佐した。 2.東北大、山形大との共同研究実施 孫育てに関わる祖父母の研究について、次年度調査を準備中である。 3.論文、学会発表による研究成果の公表 研究報告1題（共同研究者）を発表した。国際学会（筆頭2題）、学内研究会（筆 頭1題）で発表を行った。 4.外部資金獲得に向けた活動 研究助成への応募（共同研究（分担研究者）　1件）したが、不採択であった。
社会貢献	0.10	1.琉球大学附属病院看護部院内研修への協力（看護研究） 2.日本看護研究学会の運営協力 3.中高年看護職者のセカンドキャリア研究会への参加 4.オープンキャンパスの運営支援（母性看護・助産学分野の紹介）	0.15	1.院内研修(看護研究)の企画、運営を行った。附属病院看護部の1部門3課題 の看護研究を担当し指導を行った。また、研修講師を務めた(査読の視点)。 2.日本看護研究学会にて懇親会の司会進行を務めた。 3. 中高年セカンドキャリア研究会に参加し、調査結果の共有をおこなった。 4. オープンキャンパスの運営では、母性看護・助産学分野の紹介を行った。
管理運営	0.05	1.臨地実習検討委員会への参画及び運営	0.05	臨地実習委員会では、副委員長として委員長を補佐した。
進路指導	0.05	1.助産選択希望および助産選択学生に対する進路相談、指導の実施 2.指導教員としての学生支援 （担当学生に対する履修指導、進路相談の実施）	0.10	1.助産選択希望および助産選択学生に対する進路相談、指導を行った。 2.指導教員として、担当学生の履修指導、進路、休学等の相談を行った。 進路選択や休学の相談を受けた学生に対し、個別対応を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	玉城陽子	所　属	医学部 保健学科　母性看護・助産学分野	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	前期：周産期学（7回）、助産の理論（1回）、母性看護実践学（演習4回講義1回）、を担当している。学生の専門的な知識の習得のため、視覚的な教材を用いて理解しやすいように工夫する。また、演習は実践力を強化するために工夫する。後期の助産実習に向けての各実習施設との調整、継続症例の選択を学生に合わせてできるだけ負担のないように調整する。また、カリキュラム改訂により、科目担当である助産診断・技術学Ⅱが3年後期より、4年前期に移行した。高度専門職業人育成のため、シュミレーター教育を取り入れたより実践に近い講義を実施する。 後期：助産実習を担当する。6月より実習調整を開始し、7月より継続症例の妊婦健診での実習を開始する。産科医不足問題等から助産師への期待が高く質の高い助産師が求められている。今年度は分娩介助技術に加え院内助産院等を見据えて妊娠期の診断技術習得に力をいれる。 卒業研究登録学生を指導し、来年度学会発表ができるように指導する。	0.50	前期：周産期学（7回）、助産の理論（1回）、母性看護実践学（演習回講義1回）、を担当した。演習にシミュレータを使用し、より実践的な看護技術を習得できるように計画・実施した。後期の助産実習に向けての各実習施設との調整、継続症例の選択を学生に合わせて調整するために調整回数を2回とした。,また、カリキュラム改訂により、科目担当である助産診断・技術学Ⅱが3年後期より、4年前期に移行した。高度専門職業人育成のため、シュミレーター教育を取り入れ、具体的な症例を設定して実践に近い演習を行った。 後期：助産実習を担当した。6月より実習調整を開始し、7月より継続症例の妊婦健診での実習を開始した。10月より分娩介助実習を含めた助産実習を開始した。学生1名が、体調不良や精神的なストレスにより実習を継続することができなかったが、何度も面談をし、実習病院とも調整を繰り返したが単位取得にいたらず残念である。今後実習での学生支援のあり方を再考する必要があり、来年度の課題とする。 卒業研究登録学生を3名指導した。来年度学会発表できそうな内容であるため、来年度までに抄録を完成できるように指導を続ける。
研究	0.50	母乳栄養継続のために、妊娠期からの栄養摂取状況に焦点をあてて研究している。4月に調査を終了し、以後、集計・分析後博士論文として投稿する。 11月APAPCHにて発表を行う。 母性衛生学会沖縄県支部の事務局を担当する。	0.30	母乳栄養継続のために、妊娠期からの栄養摂取状況に焦点をあてて研究を継続している調査を7月に終了したが、助産実習に時間を割かれ、集計・分析が予定どおりすすまなかったので、来年度の投稿を目指す。 11月APAPCH（スリランカ）にて発表を行った。 母性衛生学会沖縄県支部の事務局を担当した。
社会貢献	0.05	日本助産師会沖縄県支部の研修に協力する。 全国助産師教育協議会の施設会員・個人会員であるので、他大学と協力しながら助産師教育の学部教育を今後どのように進めるのか、4年制以外の方向を考えるのか検討していく。	0.05	日本助産師会沖縄県支部の研修に協力・参加した。 全国助産師教育協議会の施設会員・個人会員であり、総会に参加し、助産師教育の学部教育を今後どのように進めるのか、4年制以外の方向を考えるのか講演会に参加した。
管理運営	0.05	臨地実習委員会書記として、教員間の実習の協力体制、学生実習の問題点の解決に向け検討する。また、附属病院との実習・教育協力体制を継続していく。	0.10	臨地実習委員会書記として、附属病院との実習体制を検討し、学生の感染症防止についてのマニュアルを再改訂した。委員会を3回開き、教員間の実習の協力体制、学生実習の問題点について検討すした。
進路指導	0.05	卒業生の現在の動向を踏まえて、助産選択学生を含めた看護コース学部学生への就職・進学のための情報提供を実施する。 卒業生への大学院進学情報を提供し、社会人入学への進学指導を実施する。	0.05	卒業生の現在の動向を踏まえて、助産選択学生の就職・進学のための情報提供を実施し、就職先について相談を受け、将来の希望を踏まえ、志望している病院の情報を提供した。 卒業生への大学院進学情報を提供し、社会人入学への進学指導を実施した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定して	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）						
名　前	辻野　久美子		所　属	医学部保健学科小児看護学分野	職　名	教授
領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果		
教育	0.40	学科･研究科の基本理念、看護学教育目標を基盤とし、学部教育においては、学生が看護職者に必要な知識、技術を習得し、資質を向上させるように担当科目の教授法を工夫する。大学院は、学生主導で授業を展開させ、小児看護学に対する学生の理解が深まるようにサポートする。	0.40	学部教育はほぼ目標を達成できた。特に、学生主導でプレゼンテーションや演習を展開できるように工夫したことは評価できる。大学院は、専門科目の受講生がいなかったため、オムニバス形式の共通科目を2回担当し、評価者の専門分野の知識を教授した。		
研究	0.40	・学会誌への投稿を行う　・国際･国内学会において報告発表を行う　・外部資金の獲得に積極的に努める　･他大学と共同研究を実施する	0.30	目標をほぼ達成できた。		
社会貢献	0.07	・新任のため、今年度は地域における関連部署、担当者と連携を図る　・講演等の要請があれば、応じる	0.10	附属病院看護部の看護研究指導に携わった。講演の依頼はなかった。		
管理運営	0.08	・入試委員の責務を果たす　・日本看護系大学協議会、大学院検討委員会委員の責務を果たす	0.10	ほぼ達成できた。		
進路指導	0.05	･進学、就職の個別相談に応じる　・必要に応じて推薦書を作成す	0.10	3年次の指導教員として活動した。		
	0.00		0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。		

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	外間登美子	所　属	医学部保健学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	学部担当科目（遺伝学、小児病学，症候病態論等）を担当し、看護コースと検査コースに必要な講義を行なう。大学院講義（小児保健学特論、アジア･太平洋の保健医療、国際小児保健学特論）を担当し学外Webクラスと協働する。	0.30	学部担当科目（遺伝学、症候病態論、国際母子保健論）を担当し、看護コースと検査コースに必要な講義を行なった。大学院講義（小児保健学特論、アジア･太平洋の保健医療、国際小児保健学特論）を担当し、学内および学外e-learningと協働した。
研究	0.30	大学院博士課程前期および後期の学生と共に母子・国際保健の研究論文の採択を目指す。海外研究者との共同研究を継続する。保健学における教育法の研究開発に努める。	0.30	大学院博士課程前期および後期の学生と共に作成した母子保健の研究報告を国外学会にて発表した。海外研究者との共同研究をシンポジウムで発表し、APJPHに特集として編集した。保健学における教育法の研究開発を海外研究者と共に行った。
社会貢献	0.10	中城村の嘱託医として乳幼児健診に従事し、地域保健医療に貢献する。保健看護系専門学校の小児科学の教育に貢献する。県医師会代議員、国立大学協会国際交流委員会専門委員として社会貢献するとともに、アジア太平洋公衆衛生学校連合体の役員として連合体を運営する。	0.10	中城村の委嘱医として乳幼児健診に従事し、地域保健医療に貢献した。保健看護系専門学校の非常勤講師として小児科学の教育に貢献した。沖縄県医師会代議員、日本女医会沖縄支部長として社会貢献するとともにアジア太平洋公衆衛生学校連合体の役員（前会長）として学術会議やフォーラム等を開催した。
管理運営	0.10	学内国際交流委員として大学の国際交流運営に参加する。	0.10	学内国際交流委員会の委員として大学の国際交流運営に参加した他、国立大学協会　国際交流委員会の専門委員として会議に参加した。
進路指導	0.10	教室関連大学院学生には個別の進路指導を実施する。	0.10	教室関連大学院修了生には個別の進路指導を実施した。
	0.10	附属病院小児科外来診療に従事し地域医療に貢献する。	0.10	附属病院小児科外来診療に従事し地域医療に貢献した。台北医科学大学客員教授として、2012年度台湾ヘルスフォーラムで講演、パネリストを務めた。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	具志堅　美智子	所　属	母子看護学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.00	講義は領域講義の「遺伝学」と「症候病態論」を各1コマ、看護学に関しては成人看護学領域の「慢性期看護実践学」を1コマ（150分）担当する。臨地実習は、成人慢性期看護実習を4クール（1クール2週間）、生活援助技術Ⅱを2週間、看護総合実習及び生活援助Ⅰで各1週間の計12週間担う。その他、分野の講義運営および講義補助を行なう。卒業研究登録学生には研究指導を行う。	0.60	「遺伝学」と「症候病態論」では各1コマ講義を担当した。同講義の運営補助業務を行った。他分野では「慢性期看護実践学」を3コマ（450分）担当した。「慢性看護におけるPBL」の授業は、指定講義室ではグループワーク困難なため「おきなわクリニカルシュミレーションセンター」を活用した。看護の臨地実習では、「慢性期看護学実習」を8週間、「生活援助技術Ⅱ実習」を2週間担当した。「卒業研究」は受講生未登録にて未開講となった。
研究	0.00	国際学術誌に英論文を投稿する。その他、全国学会および学内の研究会に研究成果の発表を行なう。	0.25	3月に「沖縄の小児保健−第39号−」に投稿論文が掲載された。7月には国際学術誌「Journal of Diabetes Investigation」に英論文を投稿した。10月に返信された査読結果を受け加筆修正後、2月に同誌に再投稿となった。学内活動として「第114回保健科学研究会」で発表した。FD活動として「琉球大学付属病院看護部院内看護研究会」にて9西病棟の研究指導を行った。
社会貢献	0.00	日本糖尿病教育・看護学会学術誌専任査読委員および日本糖尿病看護・教育学会専任査読委員としての任務を果たす。今年度9月開催予定の第17回日本糖尿病看護・教育学会の一般演題査読および学会開催においては、一般演題の座長の役割を担う。	0.10	「日本糖尿病教育・看護学会」学術誌専任査読委員として任務を継続した。また、同学会の専任査読委員として「第17回日本糖尿病看護・教育学会」において一般演題を5題査読し学会運営に貢献した。同学術大会では一般演題座長の依頼を受けるも希望者多数にて保留となった。
管理運営	0.00	センター試験の入試監督を行なう。オープンキャンパスに参加協力する。看護学教育会議に参加する。看護系組織においては、学習環境整備委員である。その他、看護国家試験模試担当者、看護協会世話役担当である。	0.05	大学入試センター試験では離島監督者として宮古会場を2日間担当した。オープンキャンパスでは日頃の研究成果をポスター掲示した。第102回看護師国家試験模試世話役として模試監督を公休日に3回実施した。また、模試対策講義を60分×3回（180分）実施した。看護協会施設会員世話役として、機関紙配布、各種回覧、次年度会員更新手続き等のサポートを行った。
進路指導	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	0.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	古謝　安子	所　属	医学部	職　名	講師 ⇒ 教授(1/1付)

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	学生が自ら専門書や関連する図書で学習を深めるような授業を作るため、本年は、PBLやクイズ形式を授業に取り入れたい。また出席カードを活用した学生の意見聴取と疑問への回答のほか、積極的な発言を引き出せるよう授業の進め方を改善したい。卒業に向けた看護部との看護技術ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞを授業として組み立て、振り返りを強化できるよう改善する。	0.30	･･･授業では演習を多用し、学生個人の思考やグループ討議により解決案を見出せるよう工夫した。出席カードからの疑問点や気づきを次回授業に繋げたので、学生は疑問点を多く記述するようになった。コース教員と附属病院看護部、シミュレーションセンターと連携し、卒業前の看護技術演習を実施できた。
研究	0.30	投稿中の論文の採択と新たな研究論文の投稿を行う。科研費で進めている座間味村の介護と看取りに関連する研究では、村役場関係者との協同体制を強化し、先進地視察を企画実行する。保健福祉関係者や住民との検討会の立ち上げにむけ支援する。研究成果の学会報告を行う。	0.30	･･･学会（1国際、2国内）で研究成果を発表し、シンポジウムの演者となった。科研費によって高齢者介護の先進地（山口県、オランダ）を視察し、また研究フィールドの離島村役場の担当者らにも国内視察を提供した。本視察により在宅介護について、研究・教育、村役場の今後の方向性を考える示唆が得られた。
社会貢献	0.20	沖縄県や沖縄県看護協会の訪問看護推進委員会、那覇市の母子保健推進委員会やうるま市および西原町の高齢者・介護保険関連の委員会等へ参画する。また沖縄県看護協会のまちの保健室推進委員会や県民健康フェア委員会等に参画し研修会の講師として生涯学習に貢献する。	0.30	･･･職能団体において3つの委員会を兼務し、研修講師を担った。また2市町において高齢者福祉・介護保険の地域包括ケアに関する委員会の委員を兼務し審議を深めた。附属病院看護部との研究ユニフィケーションで2病棟の研究支援を行った。本学科同窓会の副会長として会運営を行った。
管理運営	0.00		0.05	･･･学内委員会で学生支援に努めた。1月以降、教授として各種会議に出席し審議した。
進路指導	0.15	4年次指導教員として学生と積極的に関わり、最終学年として修業や進路指導、就職支援などについて班会議での意識づけを行い、個別相談を積極的に受け入れる。また、学生個々の就労に関する取り組み状況を把握し、進路相談等の支援を行う。	0.05	･･･4年次指導教員として就職相談や個別相談に対応した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	小笹　美子	所　属	医学部保健学科	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.60	保健師実習、公衆衛生看護実践学を担当し、公衆衛生看護の興味と理解が深まる講義、実習を行う。地区把握実習では看護職の基礎となるコミュニケーションの経験、実施ができるように市町村、民生委員協議会との連携を強化する。保健師実習では基本となる家庭訪問、健康教育が体験できるように実習施設と調整を行う。また、保健師選択科目の効果的な教育を行うために教材開発を行う。	0.65	保健師実習、公衆衛生看護実践学、公衆衛生看護管理を担当した。地区把握実習では実習先の市町村、民生委員協議会と連絡を取り円滑な実習が実施できた。保健師実習では県内3大学が協力して実習施設の確保に取り組んだ。加えて、保健師として就職を希望している学生に「保健師クラス」を開講し公衆衛生看護の実践に役立つ授業を行った。
研究	0.20	平成23年度こども未来財団調査研究事業として実施したこども虐待に関する研究を継続し、6月の地域看護学会、10月の日中韓看護学会で演題発表を行う。また、7月の看護研究学会交流集会で大学卒新人看護職の成長に関する研究成果について報告する。	0.20	日本公衆衛生学会、地域看護学会、看護学会－老年看護一で演題発表を行った。また、看護研究学会交流集会でシンポジストとして発表を行った。エジンバラで開催されたTransforming Community Health International Conferenceでこども虐待について発表した。第42回日本看護学会論文集一地域看護一に「こども虐待に対する保健師の支援」を投稿し掲載された。
社会貢献	0.05	沖縄県の3大学と看護協会、県が協働で実施する新人保健師研修の企画及び講師を行う。 また、沖縄県都市計画審議会の委員及び中城村の地域包括ケア推進協議会委員を務める。 沖縄県で開催される第38回日本看護研究学会の運営に協力する。	0.05	沖縄県新人保健師研修会の企画を提案し、3大学と看護協会が協働で8月、10月、1月に研修会を実施した。沖縄県都市計画審議会の委員として委員会に出席し公衆衛生の立場から意見を述べた。今年度から那覇市母子保健推進協議会の会長に就任した。 第38回日本看護研究会学会の事務局として学会運営に協力した。
管理運営	0.10	保健学科の教務委員として学科の運営に協力する。保健科学研究会の世話人の一人として運営に協力する。入学試験実施時の試験監督を担当する。また、平成24年度入学師からスタートする新しい保健師課程カリキュラムが円滑に運営できるように準備を行う。	0.05	保健学科の教務委員として毎月の委員会に参加し、保健師教育の立場から意見を述べている。保健科学研究会の世話人として運営に協力している。大学入試の試験監督を行った。また、学長候補者選考委員会の委員を務めた。
進路指導	0.05	1年次の指導教官として他の教員と協力し、早期体験実習が円滑に実施できるように指導する。 保健師として就職を希望する学生に対する就職指導を行う。地域看護教室のホームページに県内保健師の就職情報を掲載する。	0.05	1年次の指導教官として他の教員と協力し、早期体験実習が円滑に実施できるように指導した。また、保健師として就職を希望する学生に就職情報を提供し、進路について助言指導を行った。卒業生の転職相談にも応じた。 地域看護学教室のホームページの就職情報を更新し保健師を希望する学生及び卒業生に情報提供を行っている。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	當山裕子	所　属	医学部保健学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	地区把握実習、保健師実習、在宅看護実習において、学生の到達度を把握しながら、実習先の指導者と協働で実習指導に当たり、学生の実践能力が高まるよう支援する。卒業研究登録希望者の3年次を対象に、卒業研究にむけての勉強会を行う。また4年次の卒研登録者が円滑に研究を遂行できるよう指導する。後学期には「保健関係法規」を担当し、教育評価を行う。公衆衛生看護学、家族看護学、公衆衛生看護実践学の講義の一部を担当する。	0.35	地区把握実習、保健師実習、看護総合実習において学生の到達度を把握しながら、実習先の指導者と協働で実習指導に当たり、学生の実践能力が高まるよう指導した。卒業研究登録者の3年次を対象に、勉強会を行い、研究計画の作成、倫理審査への申請を行った。また4年次卒研登録者2名の研究指導を行い、発表、論文作成に至った。「保健関係法規」「島しょ地域看護論」を担当し、教育評価を行った。「公衆衛生看護学」「家族看護学」「公衆衛生看護実践学」「保健福祉政策論」の講義の一部を担当した。「保健福祉政策論」は非常勤講師との調整、講義資料の準備、講義中の支援を行った。
研究	0.25	地域住民組織である母子保健推進員のエンパワメントに関連する要因の検討について調査、研究を行う。 博士号取得に向けて研究計画をたて、調査を行う。	0.15	「沖縄県内で活動する母子保健推進員の活動意識」が「沖縄の小児保健」第39号に掲載された。共著者として「母子保健推進員とのパートナーシップを構築する保健師の技術」が日本看護科学会誌32巻1号に掲載された。新任期の行政保健師を対象とした追跡調査を開始した。
社会貢献	0.20	県内の看護系大学の教員、沖縄県国保医務課、沖縄県看護協会と協力し、地域で活動してまもない新任保健師へ継続教育の機会を提供する。 第38回日本看護研究学会学術集会の事務局長を務め、学会本部、運営事務局と連携し、学術集会が円滑に開催できるよう努める。	0.40	沖縄県看護協会主催の「新人保健師研修会」を県内の看護系大学の教員、沖縄県国保医務課と共同で企画・開催し、講師を務めた。 第38回日本看護研究学会学術集会の事務局長を務め、学会本部、運営事務局と連携し、学術集会の企画・運営・事後処理を行った。学術集会は一般演題473題、参加者1,313名を数え、好評を得た。 「健やか親子おきなわ21」推進専門部会の委員として活動した。那覇市母子保健推進員協議会結成20周年記念式典で講演「母子保健推進員のちから！」を行った。那覇市新任保健師等人材育成事業研修会の企画に携わり、講師を務めた。第1回日本公衆衛生看護学会学術集会に実行委員として携わった。
管理運営	0.10	保健学科看護学教育会議に積極的に参加し、議題調整や記録などの役割を担う。 保健学科臨地実習検討委員会の委員として活動する。 地域看護学教室の卒業研究登録学生や大学院生の研究が円滑に進むよう合同ゼミの開催や連絡調整を行う。	0.05	保健学科看護学教育会議に積極的に参加し、議題調整や記録などの役割を担った。 保健学科臨地実習検討委員会の委員として活動した。 地域看護学教室の卒業研究登録学生や大学院生の研究が円滑に進むよう合同ゼミの開催や連絡調整を行った。 全国保健師教育協議会の学内担当者として連絡調整を行った。また九州ブロック会議や研修会へ参加し、会員校の教員と情報交換を行った。
進路指導	0.10	保健師国家試験対策模試の係を担当し学生の国家試験合格に向けての支援を行う 卒業研究、博士前期の学生の研究指導を通して進路相談を行う 現在の看護基礎教育の状況から、学部生へ大学院への進学をすすめる 実習指導者会議、社会貢献などの機会に行政で働く保健師へ大学院への進学をすすめる	0.05	保健師国家試験対策模試の係を担当し学生の国家試験合格に向けての支援を行った。 地域看護学分野に所属する卒業研究、博士前期の学生から進路の相談を受けた。また、保健師の採用試験の情報を収集し、相談に来た学生に情報提供した。 教室の卒研登録している学部生へ大学院への進学をすすめた。実習指導者会議、社会貢献などの機会に行政保健師へ大学院への進学をすすめた。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	與古田　孝夫	所　属	保健学科地域看護学講座精神看護学分野	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	・視聴覚教材、研究業績を活用した授業展開 ・教育補助者の有効活用と資質の向上	0.30	・授業内容に応じて関連する視聴覚教材を活用するなど、学生の興味関心をひく授業展開を心がけた。授業内容に関連するものついては，研究で得られた知見を提示した。指導する大学院前期課程1年次学生1名をTAとして活用し，授業法の教授並びに研究指導法について助言を行った。 ・開講授業の評価は，前期の精神看護学88.8点，後期の精神看護実践学91.0点であり，教育領域の目標は達成できたと考える。
研究	0.40	・助教・大学院学生を含む研究論文の投稿、発表 ・助教・大学院学生を含む関連学会への成果発表	0.40	・原著論文3編(共著)が学術誌に掲載された。 ・The 15th Congress of Asian College of Psychosomatic Medicine (Ulaanbaatar, Mongolia) 及びThe 44th Conference of Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health（Sri Lanka）において、大学院生を含め5演題の国際学会発表を行った。 以上のことから，研究領域の目標は達成できたと考える。
社会貢献	0.15	・学外の委員会等への参画 ・学外研究会の運営・参画 ・学外における講演、研修会における社会貢献 ・学外教育機関への教育支援	0.15	・西原町及び中部広域連合の介護認定審査会委員を務めた. ・西原町障害者介護給付認定審査会の委員長を務めた. ・平成24年度 沖縄心身医学会・協会共催による一般者向け講演会の責任者として企画・運営を行った. ・沖縄ED研究会代表世話人として第18回ED研究会の企画・運営にかかわった. ・医療法人ﾌｪﾆｯｸｽ博愛病院看護研究研修会の講師を務めた。 ・医療法人おもと会沖縄リハビリテーション福祉学院非常勤講師として、人間発達学の講義を担当した。 ・琉球大学医学部附属病院看護部院内研修会の講師を務めた. 以上のことより、社会貢献領域の目標は達成できたと考える。
管理運営	0.10	・所属部局における委員会での具体的貢献 ・所属学科等の管理運営における具体的貢献 ・入試関連業務における具体的貢献	0.10	・学科における学内各種委員会委員及び管理運営業務，学部・院を含む入試関連業務に携わり，当該の目標は達成できたと考える.
進路指導	0.05	・進路指導・就職支援に向けた具体的取組	0.05	指導する学生・院生の進路指導，就労支援に関して随時助言を行い，当該の目標は達成できたと考える.
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）						
名　前	豊里　竹彦		所　属	医学部	職　名	助教
領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果		
教育	0.30	現在のところ、担当科目はないが所属分野の精神保健看護学特論や精神看護学実習、その他の臨地実習で看護師教育に携わるとともに、卒業研究や修士研究に参加し、研究方法及び分析などの教育を行う。	0.30	・学部教育では、精神看護実習、慢性期看護実習や基礎看護実習などの臨地実習や卒業研究に従事し、臨床の場でリーダシップを発揮できる看護師の育成に携わった。 ・大学院教育では、昨年度より大学院教育研究の補助として承認され、精神保健看護学特論や大学院前期・後期課程の学生に研究指導を行った。 ・附属病院との看護研究ユニフィケーションのワーキンググループメンバーとして、臨床看護師の研究指導を行い、臨床研究の向上に寄与できた。 ・以上より、教育目標は達成できた。	
研究	0.30	平成24年度科学研究費補助金（若手研究　B）「地域住民の心身の健康とソーシャル・キャピタルとの関連及び地域支援介入モデルの構築」の研究代表者として、地域住民の健康サービスに実践・応用できるようなケア・システム構築に努める。また、その他の外部資金（1件）の獲得及び国内学会誌への投稿（2件）、国外学会での発表（1件）を目指す。	0.30	・平成24年度科学研究費補助金（若手研究　B）「地域住民の心身の健康とソーシャル・キャピタルとの関連及び地域支援介入モデルの構築」の研究成果を沖縄県公衆衛生学会、日本公衆衛生学会およびThe 44rd Conference of Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health（APACPH）にて発表した。 ・上記以外で、日本公衆衛生学会1演題（共）、The 15th Conference of Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health（ACPM）で5演題の発表を行った。 ・原著論文1編（筆頭）と3編（共著者）が国内雑誌に掲載された。 ・APACPHの関連部門であるEarly Career Networkのメンバーとなり、アジア圏の若手研究者との学術交流を図った。 ・以上より、研究目標は達成できた。	
社会貢献	0.20	沖縄心身医学協会の公開市民講座やED研究会の世話人として、こころとからだの健康について地域への啓蒙活動や生涯学習の向上に努める。	0.20	・沖縄心身医学協会の事務局および沖縄ED研究会世話人として、講演会の企画・運営に携わり、こころとからだの健康について地域への啓蒙活動や生涯学習の向上に努めることができた。 ・西原町介護認定審査会委員を務めた。 ・放送大学「第101回看護師国家試験学習支援ツール」作成の「医療保険制度」「看護倫理」および「人間の特性」の部分を担当した。 ・以上より、社会貢献目標は達成できた。	
管理運営	0.10	オープンキャンパス実行委員として、保健学科の理念・戦略・使命が広く普及できるよう計画を実行する。	0.10	・オープンキャンパス実行委員として、保健学研究科の理念・戦略・使命が広く普及できた。 ・以上より、管理運営目標は達成できた。	
進路指導	0.10	看護師としての臨床経験や大学の教員としての経験を生かし、講義、実習や普段の学生との交流の中で就職や進学への助言や情報提供を行う。また、看護協会などからの進学や就職の情報は、積極的に学生に提供する。	0.10	・看護師としての臨床経験や大学の教員としての経験を生かし、講義、実習や普段の学生との交流の中で就職や進学への助言や情報提供を行った。相談内容と件数は、在校生では進路相談が4件、対人関係の悩みが2件、卒業生は進路相談が2件、職場での対人関係の悩みが1件であった。 ・以上より、進路指導目標は達成できた。	
	0.00		0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。	

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	和氣　則江	所　属	保健学科　臨床心理・学校保健学分野	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	1）学部の担当専門科目（3科目）は、前期に養護概説、後期に養護実習論と養護実習である。本年度は10名の学生が養護実習を行うため、実習校との調整や視察などに特に配慮し、有意義な実習ができるよう力を尽くしたい。 2）学部のオーガナイズ科目（臨床心理学、カウンセリング論）については、これまで同様、非常勤講師との連携を密にとり、学生の履修に支障がないようにする。全学の総合科目「女性学」については、今年度より養護教諭の必修科目からは削除となっているが、全学からの強い要望がありオーガナイズを継続することになるかもしれないので、事務方や非常勤講師との調整などをきちんと行いたい。 3）卒業研究に関する学生との定期的な検討会を週１回以上実施。研究の進捗状況を把握して、適宜、個別の相談に応じる。	0.35	1）担当専門科目である養護実習予定者10名のうち、9名の実習調整、視察、評価等を無事終えることができた（1名は持病を理由に本人より辞退の申し出あり）。学生による授業評価は養護実践演習89.8点、養護実習92.7点であった。実習協力校からも受け入れた学生について概ね良好な評価をいただいた。養護概説は受講生１名しかいなかったので、マンツーマンで実際の教育現場等の見学も加え、しっかり指導ができた。 2）オーガナイズ科目については、非常勤講師の調整に難渋した面があったが、シラバスの予定通りに進めることができ、学生からの評価は臨床心理学88.4点、カウンセリング論77.0であった。また、オーガナイズ科目ではないが今年度から開講された看護総合実習において、学生３名を担当し、新たな実習施設先を確保（特別支援学校）して見学実習を経験させることができた。 3）卒業研究については、３名の学生（それぞれ別のテーマ）を指導し、発表・小論文提出まで、一連のプロセスを経験させることができた。
研究	0.30	1）昨年度は「保健室登校児童生徒への養護教諭による対応の検討」に関する研究成果を、学校保健学会で発表できたが、論文投稿にはいたらなかったので、なんらかの形で学会誌に投稿する。 2）「幼児の共感性・行動制御力獲得と学校適応力育成のためのアクション・リサーチの試み」～研究代表者：吉永真理教授（昭和薬科大学），平成22年度～24年度日本学術振興会による科学研究費補助～に、連携研究者として協力。	0.05	1）今年度は論文作成がなかなか進まず、投稿できなかった。 2）連携協力者となっていた「幼児の共感性・行動制御力獲得と学校適応力育成のためのアクション・リサーチの試み」でも、研究代表者側の都合により沖縄側での調査がなされなかった。 3）共著者として、紀要論文「中学生を対象とした講演形式によるストレスマネジメント教育の効果について」が学術リポジトリで公開された。
社会貢献	0.20	1）沖縄県教育庁保健体育課の「健康調査研究部会」委員として、保健室登校に関する調査に協力。 2）沖縄県立総合教育センター主催の養護教諭研修への協力。 3）琉球大学教育学部附属小中学校との連携・協力…一昨年度より開始した両校の養護教諭との学習会を継続。 4）教員免許状更新講習への科目提供。 5）学生ボランティアの派遣（T高校通信課程生徒の定期健康診断、附属小中および近隣校の健康行事等）	0.25	1）沖縄県教育庁保健体育課「健康調査研究部会」委員として、保健室登校に関する調査を実施、報告書の作成に協力した。また、沖縄県養護教諭研修会において講話を担当した。 2）沖縄県立総合教育センター主催の新規採用者研修で講義を担当した。 3）琉球大学教育学部附属小中学校との連携・協力…定期的な学習会は持てなかったが、適宜、情報交換を行い、附属小学校の研究発表会にも参加するなど協力できた。 4）教員免許状更新講習に科目提供・講義を担当した。 5）学生ボランティアの派遣（T高校通信課程生徒の定期健康診断、琉球大学近隣の小中学校での健康行事等）を行った。 6）沖縄県臨床心理士会の一員として、「こころのコリをほぐす会」に参加。東日本大震災により沖縄へ避難している方々への支援を行った。
管理運営	0.10	以下の委員としての任務を全うする。 1）全学的委員会（教員養成運営委員会、教員免許状更新実施委員会、ハラスメント相談員会） 2）保健学科教務委員会 3）看護学コースにおける各種委員やWG委員（カリキュラム検討）	0.15	1）全学的委員会（教員養成運営委員会および教職課程企画調整WG、教員免許状更新実施委員会、ハラスメント相談員会）のメンバーとして、毎回出席し、さまざまな検討を行った。特に、教職課程企画調整委員会では、次年度から開催される教職実践演習についての検討を行った。また、ハラスメント相談員として数件を担当し実際に相談にあたった。 2）保健学科内では、教務委員会、学生支援委員会のメンバーとしてさまざまな検討を行った。 3）看護学コースにおいては、臨地実習調整委員、カリキュラム委員としての活動を行った。
進路指導等	0.10	1）４年次指導教員として、担当学生の卒業までの支援、特に進路に関する相談等に尽力する 2）養護教諭採用状況に関する県内外の情報収集と提供 3）沖縄県内の養護教諭臨時採用等に関する情報提供	0.20	1）４年次指導教員として、担当学生の支援を行った。助産実習中止や同窓生によるストーカー的被害などのトラブルが生じ、当該学生とその保護者からの相談に尽力した。また、内向的な性格の強い学生の面談を継続し、学生生活への適応を見守っている。また、担当以外の学生からの相談も受けた。 2）養護教諭採用状況に関する県内外の情報収集と提供に努めた。沖縄県養護教諭採用試験に、現役合格者１名を出すことができた。
			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）					
名　前	作道　章一	所　属	医学部保健学科生体代謝学	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	演習、レポート、プレゼンテーションを多くとり入れることで、学生の論述力高めるとともに自発的に学習する意識を持たせるよう、努力する。	0.30	担当科目である分析化学、健康食品学、栄養学、食品衛生学において、積極的に演習をとりいれた。また、レポート課題を出して、論述力を高めるトレーニングを行った。さらには、分析化学および食品衛生学において、学生によるプレゼンテーション発表を行った。さらに4年次で卒業研究生として配属された学生について、卒業研究指導の他に国内学会での研究発表も指導した。
研究	0.40	これまでの研究テーマであるプリオン蛋白質の機能解析やプリオン病の病態解析の他に、主な研究テーマである「滅菌装置の開発」に積極的に取り組み、この研究で競争的研究資金に応募する。	0.40	ガスプラズマ滅菌に関する研究の進展に伴い、多くの研究助成金応募を行った。その結果、農水省（生研センター）の大型予算が研究代表者として継続採択されただけでなく、研究代表者として科学研究費（新学術領域研究、若手研究（B））、森永奉仕会研究助成金も採択された。また、厚生科研費、文部科学省の競争的資金においても研究分担者として研究課題が採択された。さらに、研究内容が評価され、日本獣医学会大会長賞を受賞した。2012年は英文原著論文を7報、英文総説を11報、日本語総説を6報発表した
社会貢献	0.10	日本ガイシ株式会社やサラヤ株式会社などの学術面、研究技術面での指導を行うとともに、工業技術開発の連携を深める。	0.10	株式会社メディエートの学術面、研究技術面での指導を行った。さらに、沖縄県消費生活審議会委員を務めた。また、国際的に評価の高い雑誌であるAnalytical Chemistry、Biomolecules、Clinica Chimica Actaなどの欧文学術雑誌の論文審査委員も務めた。Microbiology and Immunology誌においては、Associate Editorを務め、Experimental and Therapeutic Medicine誌など7雑誌においてはEditorial Board Memberとして論文審査等に貢献した。
管理運営	0.10	各種委員会委員として管理運営に協力する。	0.10	琉球大学動物実験委員会委員および医学部RI実験施設運営委員会・保健学科教務委員会委員を務めた。
進路指導	0.10	将来の職業を通じて社会とどのような関わりをもっていくか、またそのためには大学でどのようなことを学べばよいのか、学生の相談に応じる。特に保健学科２年次学生に対しては指導教員として、さまざまな指導を行う。	0.10	オフィスアワー等において、学生の相談に応じた。特に保健学科２年次学生に対しては指導教員として大学生活全般にわたるさまざまな指導を行った。
	0.00		0.00	平成２４年に技術士（生物工学部門）免許を取得した。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	中尾　浩史	所　属	医学部保健学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	昨年度は赴任最初の年であり、講義を組み立てることに主眼を置いていたが、今年度は学生の理解が深まる講義となることを目標とする。学生の意見を取り入れ、リアルタイムの改善を行う。	0.38	講義に関しては、学生の意見を受け入れ、講義資料のWeb Classへの開示、小テスト、レポートなどを行い、過程での成績(小テスト)の成績が悪い学生に対しては、学習指導を行った。また、実習に対しては、沖縄県技師会の研修会などに定期的に参加し、現場に即した指導ができるように努力した。
研究	0.20	今年度の科研費が内定したので、その計画に乗っ取り、研究を実施する。初年度であり、国内学会発表を行うことを目的とする。	0.20	研究については順調に進んでおり、学会発表も行った。農学部の外山教授達と共同で行っている紅麹・黒麹の機能性に関する研究については新規の抗菌物質の存在の可能性を示唆する結果が得られており、現在構造決定を進めている。
社会貢献	0.10	沖縄の持つ生物資源と自分の研究を結びつけることにより、地域貢献を図りたい。 また、臨床検査技師会の研究会に積極的に出席し、現場の情報を得て、それを実際の教育に生かしていくつもりである。	0.10	沖縄の豆腐よう製造に使用される紅麹菌についての研究を行い、抗菌物質・抗酸化物質の探索を行っている。上述したように新規抗菌物質の候補を見出している。 臨床検査技師会の行っている研修会・研究会については最低でも月一回は参加することができ、貴重な体験談・問題点については学生へのフィードバックを行った。
管理運営	0.25	昨年度よりも、全学、医学部、保健学科いずれの委員会も増えているので、それぞれの現状・立場を踏まえ、最善となるように尽くす（１２）。	0.27	種々の委員会については最善を尽くしたつもりである。特に、保健学科学生支援委員長としては一年生の指導・サポート、就職情報の開示、また、全学の学生支援委員としては学生生活実態調査を行った。委員会のスリム化の必要性を感じた。
進路指導	0.05	今年度より、1年生の指導教員となった。早期体験実習などを通じて学生の将来像をしっかりと持ってもらう様に努める。また、臨床検査分野における沖縄県内外の就職状況などを調べ、学生に提供する。進学を希望する学生については、研究内容はもちろんのこと、研究者としての立場を理解させ、成長するように努める。	0.05	一年生については、入学当初の学生の不慣れな時期に3回の早期体験実習説明を行うと同時に琉球大学についてのサポート体制、成績システムなど大学に早くなじめるように努めた。 学生には就職状況を知らせるとともに、臨床検査技師と会う機会に病院などにおける募集状況などについて情報を得たことも学生に知らせた。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してく	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）						
名　前	今泉　直樹		所　属	医学部保健学科分子遺伝学	職　名	助教
領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定		業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果	
教育	0.25	担当教科（臨床検査総論等）について講義を行う際に、外部研修会に参加し、講義だけではなく実習に関しても充実した教育を行う。また、検査技師から直接現場で求められている教育について意見交換をし、講義に反映させる。		0.25	・・・臨床検査総論の講義ではクリニカルシュミレーションセンターでの採血実習を新しく取り入れた。また、沖縄県臨床検査技師会主催の一般検査勉強会へ定期的に参加し、現場での情報を検査技師より取り入れ、意見交換を行った。	
研究	0.45	現在の研究テーマであるミトコンドリア膜結合性グルタチオントランスフェラーゼの機能解析を進める上で、ミトコンドリア膜透過遷移への関与について研究をすすめる。また、科研費のテーマでもあるため、計画に沿った研究を行い、その成果について国内および、国際学会での発表を行う。		0.45	・・・ミトコンドリア膜透過性遷移とミトコンドリア膜結合性グルタチオントランスフェラーゼの関連性の研究成果を、アジアトキシコロジー学会にて発表した。また、紅麹・黒麹の機能性に関する研究報告会にて紅麹抽出成分であるジメルミ酸の酸化ストレス性肝ミトコンドリア障害軽減作用について発表を行った。	
社会貢献	0.05	沖縄県内のバイオ産業、企業と連携をとり、沖縄県の素材を用いた研究を行っていくことで、県内産業の活性化に貢献する。		0.05	・・・沖縄県内のバイオ関連企業と沖縄県バイオ資源を用いた研究についてディスカッションを行い、共同研究を進めていくこととなった。	
管理運営	0.20	学科内の担当共通機器についてトラブル無く使用できるよう管理運営を行う。また、教室の運営に関し教授をサポートし、ゼミを充実させ、円滑な研究環境や他の研究室とも協同できる環境作りに努める。		0.20	・・・学科内の担当共通機器に関して大きなトラブルは無かったが、定期的な確認を行うべきであった。教室の運営に関しては研究室の環境は昨年度より充実したが、来期への課題が出てきた。	
進路指導	0.05	病院、衛生検査所、企業、研究機関等の採用情報を現場から入手し、学生にアドバイスしていく。また、積極的に大学院への進学を勧め、臨床検査技師の学術レベル向上を目指す。		0.05	・・・県内病院検査室の技師からの採用情報を学生へ伝えた。また、学生だけではなく県内臨床検査技師へも大学院への進学を勧めた。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。	

名　前	金城貴夫	所　属	（学部・研究科等）	医学部　生体検査学講座　形態病理学分野	職　名	教授

領域	業務ウェイト比(予定)	年度目標設定	業務ウェイト比(実績)	年度末自己点検結果
教育	0.20	・医学科カリキュラムとの相互相容れをはかる。 ・臨床実習の充実をはかる。	0.2	形態学の系統解剖実習は医学科基礎研究との合同で実施した。臨床実習前にオリエンテーションを行った。臨床実習ノートを用いて学生各自の達成状況をチェックした。目標は達成出来た。
研究	0.20	・学会誌への投稿、発表 ・学会での報告発表 ・外部資金の獲得	0.2	診断病理に共著者として論文が掲載された。病理学会で3つの演題を発表した。研究費申請中である。目標はほぼ達成出来た。
社会貢献	0.10	・県立病院の医療支援	0.1	沖縄県立北部病院と中部病院の病理診断を支援した。目標は達成した。
管理運営	0.15	・所属部局における委員会での具体的貢献 ・所属学科等の管理運営における具体的貢献	0.15	琉球大学遺伝子組換え生物等使用実験安全主任者として各分野に適切に指導を行った。保健学科学務委員、保健学研究科学生支援委員として委員会に積極的に関わった。大学院修士論文の審査を行った。目標は達成出来た。
進路指導	0.15	・進学指導のための具体的取組	0.15	当教室の臨時採用職員や大学院生の進路指導を行い、就職が決まった。4年次卒業研究生の進路指導を行い、就職が決まった。3名の3年次卒研生の進路指導、相談を行った。目標は達成出来た。
	0.20	・診療活動及び医療支援など	0.2	大学や院外の病理診断を行った。目標は達成出来た。
計	1.00	備　考	1	

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	高嶺　房枝	所　属	医学部	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	学部学生に対し、臨床微生物学、微生物学を担当し、また、保健技術関経法規および保健技術英語購読を分担し、看護の基礎教育にあたるとともにに臨床検査技師教育のための内容を満たす講義・実習を行う。特に臨床微生物学実習においては、研究の成果で得られた新種菌種や菌株も用い、学生へ最新情報を提供する。また、保健技術卒業研究科目を通して、研究の具体的な進め方、方法および論文作成の指導に努める。	0.45	当分野提供科目の講義・実習および技術コース分担科目および保健学科提供科目及び大学院の分担科目については目標を達成した。また、今年度後期は特論の登録学生がいたため、保健微生物学特論の講義と演習も行ったので、当初のウエイトより多くなったが目標どおり達成できた。
研究	0.30	①これまでに行ってきた腸管内細菌による胆汁酸変換に関する研究をまとめ、研究会および学会等で発表する。 ②これまでの成果を一つでも多く研究論文としてまとめ、採択を目指す。	0.25	①目標どおり研究が進行した。その成果は日本細菌学会で発表した。 ②現在、論文は執筆中であり、投稿にいたってないので約90%の達成率である。
社会貢献	0.25	①保健学科臨床検査技師コースは健康食品管理士養成施設として農学部とともに指定され、これまで多くの卒業生を輩出しているが健康食品管理士資格の認知度は低く、未だその免許は生かされていない。沖縄健康食品管理士会の会長として、会の認知度および会員の資質の向上に認定協会本部とともに協力していく。　②県内専門学校の非常勤講師を務める。 ③企業との共同研究を実施し、健康飲料開発のための基礎資料作成を分担することで寄与する。	0.25	左項目に記載した事項はすべて達成した。 ③については現在報告書作成中である。
管理運営	0.03	病原体検査学分野の責任者として努める。	0.03	目標は達成した。
進路指導	0.02	臨床検査技師コースの学生に対し、臨床検査技師国家試験対策のための非常勤講師を依頼し、直前対策を支援する。	0.02	目標は達成した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	宮城　和文	所　属	医学部保健学科病原体検査学	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.33	微生物学実習の準備については、進行が捗るようにチェック表等を作成して十分に準備を整える。実習時においては各実験台に目を配り、感染事故等が起こらないように注意を促し、実習の意義や原理等について、しっかりと説明できるように努力する。また、健康食品学等の一部受け持ちの講義については、要点を整理し、講義内容の時間配分に気を付けて、メリハリのある授業内容にしたい。	0.35	健康食品学の教科書が今年大幅に改定されたために、従来のスライドもそれに沿った内容に作り直した。講義内容が増えたためにスライドの枚数が多くなり、かなりのスピードで講義を進めることになってしまったので、次回は要点を絞りもっとゆとりを持って行いたい。また、今年度は情報科学演習のExcelの講義も受持つことになった。受講生は全て医学部学生であったので、演習問題は厚生労働省の最新の統計を利用して作成した。この統計は医学部生として有用な知識が得られるような資料の選択を心がけた。
研究	0.57	外部資金を獲得できるよう努力し、細菌分野における公衆衛生的な研究に取り組みたい。特に、沖縄県に関連したテーマを選び、県民の健康に寄与できるようにしたい。研究成果については、学会誌への投稿や学会での演題発表が出来るよう努める。	0.55	研究は*Aeromonas*属菌の病原因子の検出や16SrDNAの遺伝子解析による系統分類を行った。平成24年度は外部資金を獲得できなかったので、改めて平成25年度に向けて申請書を提出した。
社会貢献	0.08	保健学科の同窓会の副会長とホームページを担当しており、会員からの情報と保健学科からの情報の発信を活発にし、ホームページを充実させていきたい。また、沖縄県臨床検査技師会と健康食品管理士会沖縄支部の研修会等に参加し、本学科の教員として双方の活動に貢献できるよう努める。	0.09	保健学科同窓会ではホームページを担当しているので、会員へのお知らせ等ホームページの更新を行った。沖縄県臨床検査技師会や健康食品管理士会では、市民向けの健康フェスタや健康食品の講演会の実務員として分担の業務を行った。
管理運営	0.02	大学入試センター試験、本学科入学者選抜第２次試験、及び健康食品管理士認定試験等の試験監督者として貢献したい。	0.01	健康食品管理士認定試験監督業務は終了した。今年２月末の本大学の２次試験の合算・転記委員にも任命されているので本業務についても貢献したい。
進路指導	0.00	予定無し	0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	粟田　久多佳	所　属	医学部保健学科生理機能検査学	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	シラバスにそって担当科目（生理学、臨床生理学、医用電子工学、画像診断学などの）の講義、実習を行う。	0.40	目標通り、講義・実習をおこなった
研究	0.30	研究を論文にまとめ投稿する。	0.30	論文作成中であるが投稿に至らなかった
社会貢献	0.05	学校検診委員会、学校医として活動する	0.05	目標を達成した
管理運営	0.20	学内、学科内の委員として参加する。	0.20	一部さんかできない委員会があった
進路指導	0.05	指導教員として4年次の進路の指導に努める。	0.05	目標を達成した
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	福島　卓也	所　属	医学部保健学科　血液免疫検査学分野	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	・学生が理解しやすい授業の工夫 ・学生とのコミュニケーションを重視した授業 ・学生に対する研究指導 ・博士課程学生に対する専門教育	0.40	保健学科生への講義を担当した。講義では学生とのコミュニケーションを重視した。保健学科検査コース2学生の研究指導を行っている。大学院生に対する専門教育を担当した。
研究	0.40	・科学研究費補助金による研究 ・厚生労働省科学研究費研究分担者としての研究 ・学会誌への投稿 ・日本血液学会造血器腫瘍診療ガイドライン委員としての活動	0.40	科学研究費補助金によるATL研究を継続して行った。厚労科研によるATLの臨床研究の遂行、新規臨床試験の作成、先進医療Bへの申請に携わった。学会誌に共著者として2論文が採択され、現在筆頭著者として1論文を投稿中である。日本血液学会造血器腫瘍診療ガイドラインが完成間近である。
社会貢献	0.05	・地域医療機関への診療支援 ・骨髄移植推進財団調整医師としての活動	0.03	週1回ハートライフ病院にてカンファランス、回診を行い、臨床支援を行った。骨髄移植粋人財団調整医師として医療相談を受けた
管理運営	0.10	・大学院医学研究科・医学部広報委員会委員 ・学科内委員会委員（1）	0.10	医学部広報委員会委員、学科内委員会委員として委員会に参加し、他委員としての活動も行った
進路指導	0.03	・地域検査技師との交流、情報収集	0.05	日本検査血液学会沖縄県支部の評議員となった。また月1回の検査技師血液標本カンファランスに参加している
診療	0.02	・大学病院外来担当	0.02	毎週水曜日午前の血液内科外来を担当した
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	宮良　恵美	所　属	医学部	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	学部科目（免疫学、臨床免疫学、臨床血液学、健康食品学）の一部を担当し、講義と実習を行う。卒業研究を指導する。	0.40	免疫学と健康食品学は各2コマの講義を、臨床免疫学は6回の講義を行った。また、臨床免疫学と臨床血液学では実習を担当して検査の基本的な原理や技術を指導できた。卒業研究は実験手技の指導ができた。
研究	0.40	学内・学外機関との共同研究を行う。研究発展に必要な実験技術を習得し、スキルアップに努める。研究成果を論文にまとめ、学会誌への掲載を目指す。	0.40	沖縄県のATL研究事業を学内外機関と連携して始めた。ATLの遺伝子検査を共同研究機関で学び研究室に導入することで、県内ATLの実態調査と効果的な治療法開発の研究基盤ができた。また、「麹を用いた健康食品素材開発と機能性解析」というテーマで農学部との共同研究を行った。沖縄県産食材の免疫調節作用に関する科研費研究もスタートした。
社会貢献	0.05	沖縄県臨床検査技師会が開催する学会・研修会等の開催を手伝う。健康食品管理士会沖縄支部の活動に参加する。	0.05	沖縄県臨床検査技師会の学会・研修会に実務員として参加し開催をサポートした。
管理運営	0.10	オープンキャンパスで保健学科の紹介に努める。入試の試験監督を行う。	0.10	オープンキャンパスでパネルや標本の展示・説明を行って学科の紹介ができた。分担された入試業務も行った。
進路指導	0.05	学生の就職・進学に関する相談に応じ、情報を提供する。	0.05	学生・過卒生の相談に応じ、就職に関する情報提供ができた。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。